

## 白秋アートギャラリー (13)

### 「文豪とアルケミスト」で味わう白秋

椎名 恵理

文豪をモチーフにしたコンテンツが増えていく。中でも注目しているのが「文豪とアルケミスト」(DMM GAMES)だ。異世界に転生した文豪たちが、文学の世界を滅ぼそうとする敵を討伐していくシミュレーションゲームである。八十人以上の多彩な文豪が登場し、ゲームの本筋以外にも、近代詩歌、小説の名作とその解釈に触れることができる。北原白秋は、薄紫髪の優雅な美青年といった風貌で描かれている。ゲーム開始時の白秋の台詞は、詩集『思ひ出』から引用されている。

……時は逝く、何時しらず 柔かに影してぞゆく  
春季・冬季の限定台詞は、歌集『桐の花』から代表歌が使われている。

春の鳥な鳴きそ鳴きそあかあかと外の面の草に日の入る夕

君かへす朝の舗石さくさくと雪よ林檎の香のごとくふれ

夏季は、童謡「雨ふり」の軽やかなフレーズが、秋季は詩集『東京景物詩及其他』「秋」の一節からだ。

「秋」は流行の細巻の

黒の蝙蝠傘さしてゆく

白秋の詩歌や童謡を、人気声優の甘美な語りで味わうことができるとも、大きな魅力の一つだろう。それだけでなく、文豪らの生立ちや仲間とのエピソードなども各所に反映され、人物を知る上でも興味深い。愛煙家の白秋は、「ちょっと一服してくるよ」といなくなるし、白秋に熱烈な手紙を送っていたという萩原朝太郎は、回想シーンで「白秋先生、どうして返事をくれないんですか」と話す他にも、白樺派や無頼派が集まると各々特別な会話が發生するなど、派閥、師弟、友人、ライバルなど文豪同士の関係性や、それに纏わるエピソードも垣間見ることが出来る。これまで文学に興味がなく、国語の時間では素通りした若い人々が、ゲームを通じて文豪や作品に再び出会い、新しい関心を深めていく。そんな文学の味わい方が広がって、良いと私は思う。「文豪とアルケミスト」だけでなく、文豪をモチーフにしたコンテンツをきっかけにして、若者の文学記念館巡りや聖地巡礼も増えている。

令和四年には、北原白秋生家記念館で没後八十年記念特別企画「文豪とアルケミスト」タイアップ「白秋と若き文士たち」が開催された。今回は、絶対に訪れたい。